

駐韓軍隊衛生心得



0367

駐韓軍隊衛生心得

目下韓國ニ於ケル邦人寄留地及鉄道沿線ノ邦人雜居地等ヲ瞥見セハ各官渡韓前豫想ニ及シ盡ク健康ニ生活シ居レルモノノ如キモ進テ其裡面ヲ查察スルハ邦人若干ハ常時傳染病ニ罹リ刻下各地民團官廳等ノ公報ニ上ルモノハ真ニ其一小部ニシテ其多數ハ暗々裡ニ埋没シ彼韓民ニ至リテハ其狀況全ク不明ノ内ニ在リ從來駐屯諸部隊ハ諸種ノ方法ヲ講シテ土地ノ清潔ヲ企テ衛生施設ノ改善ヲ圖ル等熱心銳意防疫ニ盡瘁シ来リ先結果遂次其災害ヲ滅却スルニ至リ今回帰還スヘキ部隊ハ爲ニ優良ナル衛生成績ヲ以テ其任務ヲ全フルニ至レリ今ヤ諸隊ハ向暑ニ際シ新タニ渡韓シ此非衛生的ノ風土ニ服合セシマントシ且其宿營スヘキ家屋土地ハ縱令邦人雜居地ニシテ多少外面ハ清掃シアルモ内部ハ尚其旧習ヲ脱セス況ンヤ

邦人少ナキ韓民部落ニ於テハ寒心ニ堪ハサルモノアルニ於テ
ヲヤ加之從來ノ經驗ニ徴スルニ腸窒扶斯赤痢等患疫流
行ハ六月以後ニ於テ萌發增多スルモノナレハ今後ニ於ケル防疫
上ノ警戒ハ尚ホ一層嚴密ナルヲ要スルヤ必セリ今左ニ前年
未実施シタル衛生法中最モ適切ニシテ有効ナリト認メタル
モノヲ摘録シ以テ其準拠スル処ヲ知ラシメントス各官克ク此
趣旨ヲ体シ嚴ニ形式ヲ避ケ実施ヲ督励シ危害ヲ未然ニ
防遏センコトヲ切望ス抑モ其事項タル平凡ニシテ趣味ニ乏シ
ト雖モ確實ニ之ヲ施行セハ必ス防疫ノ目的ヲ達スキナリ否現
ニ駐劄軍隊ハ此法ヲ以テ達スツアルナリ

第一、宿營、宿舎

一、宿營地ハ一定ノ地域ヲ區畫シ極力清潔法ヲ施行シ排水ヲ
利シ凹地又ハ陰濕ナル所ハ清淨ナル土砂ヲ以テ敷延シ塵芥ハ

一定ノ塵溜所ニ集メテ之ヲ燒却シ爾後日々清潔法ヲ勵行セシムヘシ

二、部落ノ清潔法ヲ計ルニ憲兵及警察官ニ交渉シ其配置ナキ所ヨリ韓官民ヲ勸誘シテ衛生委員等ヲ設ケシメ我委員主トシテ之ヲ指導シ克ク教習セシムルハ好ク豫想外ノ目的ヲ達スルモノナリ

三、宿舍ニ宿營ニ先テ清潔法要スル消毒的清潔法ヲ行ヒ爾後日々舍内ノ通氣清掃ヲ勵行スヘシ

四、韓人家屋ニ不潔陰暗ナルモノ多キヲ以テ其内壁天井及床上等新聞紙等ヲ以テ盡ク糊張シ臭虫類ノ進出ヲ防クト共ニ身体及諸物品トノ觸接ヲ避ケシメ清潔ノ保持ヲ努メシムヘシ

五、韓人家屋ニ宿營スルトキハ必ス彼等ト交通接觸ヲ避ケ宿舍ニ可及的ニ隔絶セシムヘシ

0370

六、 厠園ハ韓人ト混用ヲ避ケ我自ラ之ヲ急造スヘシ屎尿壺トシテ樽
桶又ハ糞籠等ヲ埋設スルヲ要ス

七、 上園後ハ每人本灰又ハ砂土ヲ撒布シ踏板ハ清潔ニ保持スヘシ
有毒ノ慮アルトキハ石灰ヲ用ユヘシ石灰ヲ使用スルトキハ必ス衛生
部負テシテ施行セシメ形式的ニ流レシメサルヲ要ス

八、 温突兒ハ室内ノ濕潤ヲ防カ為メ降雨ノ日或ハ其翌之日等焚
火セシムルヲ要ス但シ苦熱ヲ避ケンカ為メ早朝ニ焚火キ日没
ノ頃既ニ大部冷却スル如クスルカ又ハ勤務出場等ノ時期ヲ利
用スルヲ可トス

第二、飲食物

九、 韓國内ノ水質ハ概シテ不良ナル所多シ故ニ之カ撰擇ハ常ニ嚴
密ナルヲ要ス殊ニ住民ノ使用スルモノニアリテハ外部ヨリ直接ニ
汚物ヲ混入セシムルノ所為少カラサルヲ以テ其使用ニ當リテハ

一層ノ注意ヲ加ヘ要スルハ衛兵ヲ配置シ危害ヲ防止スヘシ又
為ニ得レハ專用ノ井戸ヲ定メ適宜補修ヲ加ヘ清潔ニ保持
スルヲ要ス

十、
總テ用水ニ標札ヲ立テ飲雜用ヲ標示シ河水ヲ使用スルモノハ必ス
其中流ヲ汲ミ且其上流ニ於ケン土民ノ使用如何等ニ顧慮スル
ヲ要ス

十一、
降雨時水質往々濁濁シ濾過又ハ沈澱清澄法ヲ行フヲ要アリ
特ニ雨期ニ於テハ一層其必要アリ豫メ計畫シ置クヲ要ス

十二、
生水ノ飲用ニ嚴ニ之ヲ禁止シ、單獨外出及私用散步時トモモ
苟クモ外出時ニ當リテハ各人必ス水筒ニ湯又ハ茶等ヲ充テ
携行セシメ管内ニ在リテハ勿論行軍等ニ於テモ必ス湯茶供給ノ
設備ヲナスヘシ其目的ヲ達スルニハ出發前武装検査ノ際必ス
水筒ノ充實ヲ検査シ且又日常ハ食後必ス充實セシメ置キ

テ不時呼集出發等ノ用ニ充テ夕食後充シタル分ハ翌朝合
嗽ノ用ニ供セシムヘシ

十三、副食物少シク心ヲ用ユルハ比較的僻地ト雖新鮮ノ魚菜ヲ得難
キニアラス又倉庫品ヲ彼是巧ニ配合シ適當ニ塩梅セハ口味ニ適シ
且充分養價ヲ得ヘシ

十四、部隊外ニ販賣スル調理品ノ買辦ハ之ヲ避ケ殊ニ韓人ノ飲食物
一切ヲ用ヤシムヘカラス

十五、食品ノ検査ハ毎食前炊事場ニ於テ軍医又ハ分遣隊長之ヲ行
ヒ調理後ニアリテモ嚴ニ之ヲ検査スヘシ

十六、食器可成煮沸湯ヲ以テ毎回食前ニ之ヲ洗滌スヘシ

十七、常ニ各内務班等ニ湯茶ノ供給ヲ富有ニ決ミテ不足アラシムヘ
カヘス

第三 甬他衛生法防疫法

十八、蠅蚊到ル處甚多数ニシテ惡疫蔓延ノ媒介者トシテ危險甚大ナリ故ニ防蠅綿紗布ヲ以テ食物貯藏所ト配食所ニ其窓戸ヲ張り絶對ニ蠅ノ竄入ヲ遮断シ又器械的ニ之ヲ捕獲撲殺スヘシ

0374

十九、マラリヤ病毒ヲ媒介スル蚊族「アノフェール」各地共發生盛ナリ甚シキ「キエロック」屬ヨリ尚多キヲ見ル所アリ故ニ蚊屬發生ノ期ニ至ラハ一般ニ蚊帳ヲ使用セシムルハ勿論常ニ其ノ破損ノ有無ニ注意シテ蚊帳ヲ免カレシメ衛兵又ニ野外勤務ニ當リテ其休憩假眠時ニ必ス防蚊覆面ヲ使用セシムル手ハ衣囊ノ内ニ入レ置カシムヘシ

二十、脚氣ニ米麦ノ混食米七麦三ノ割合ト終日ノ勤務演習等ヲ以テ殆ント絶對ニ防遏シ得テ現ニ其患者ナシ若シ安逸午睡無聊等ニ消日セシムルコト數日ニ涉レハ必ス脚氣患者ヲ出スモノト思フヘシ

二十一、萬一腳氣及麻刺里亞患者ヲ發生セハ他ノモノト隔離ニ殊ニ麻刺里亞患者ハ蚊帳ヲ使用シ蚊蠶ニ依リ病毒ノ散蔓ヲ防クシ

二十二、靴ハ不潔ノ土地ヲ踏ミ如何ニ掃除ヲ為スモ病毒ノ附著等懸念ニ堪ハサルモノナリ然ルニ從來往々室内ノ床頭ニ懸垂シ甚ニキハ

食器若ハ手拭等吾人ノ口邊ニ接スルモノト觸接シアル等從來ノ習慣敢テ怪マサル風アリ思ハサルノ甚シキモノト必ス室外ニ相當格納ノ考案ヲ立テ置場ヲ定ムルヲ要ス

二十三、韓人間腸室扶斯赤痢等不絶散發スルヲ以テ之等惡疫ノ發見ニ軍医ハ好意的ニ韓人ヲ診療シ傍ラ戸口調査的ニ時々臨檢スルヲ利アリトス

二十四、韓人場所ヲ撰マス脱糞放尿シ夏秋ノ候ニ當リテハ往々道路上粘液血便ノ存在ヲ認ムルユトアリ斯ル場合又ハ宿營地附近ニ病死者アリタル際ニ一層前項ノ調査ヲ密ニスルヲ要ス

二五、炎暑中ト虽正勤務外ノ者ニ屋外ニ於ケル適當ノ課業ヲ授ケ且ツ日夕ハ活潑ナル遊戲運動ヲ獎勵シ体カノ増進ヲ期スルト共ニ個人衛生法ノ普及發達ヲ企圖スヘシ衛生的講話ハ軍医ニ一任スルコトナリ各幹部ニ於テハ常ニ軍医ノ意見ヲ徵シ指導訓戒ノ實ヲ舉ルコトヲ務メラルヘシ

二六、救急法及衛生法大意ノ教育ハ下士以下ノ小部隊獨立勤務ニ服シ殊ニ介候郵便護衛等單獨ニ行動スルカ如キ韓國目下ノ状態上特ニ緊要ナリ其教育ノ方法ハ決シテ口授暗誦セシメス尤モ實際的ニ教習セシムルヲ要ス

二七、橋梁渡船等ノ便ニ乏シキ韓國目下ノ状態ニ在リテハ不日春ルキ雨期ニ於テ溺水ノ變事ニ遭遇スルモノ尠カラズ其急救法及人工呼吸法ノ教習ニ特ニ實地的ニ練習セシメ置クヲ要ス加之守備ノ任務遂行上夏季晝間炎熱熾クカ如キニ當リ

往々喝病ニ罹リ人エ呼吸法ノ要アルニトアリ

二十八、韓國夏季ニ於ケル晝間ハ炎熱熾クカ如ク夜間殊ニ曉天ハ

冷氣ヲ催スラ常トス故ニ夜間腹巻ヲ用ヰシムルユト及ヒ野外

夜間ノ勤務者ニ假睡用トシテ外套毛布ノ内ヲ携フ帶セシムル

シ殊ニ降雨後俄然冷氣ヲ催ス時ノ如キハ一層ノ注意ヲ要ス

二十九、自殺者之ヲ内地ニ比スレハ從來其數多シ異域ニ在リテハ精神

慰安ノ途ヲ講スルコト殊ニ必要ヲ認ム其ノ手段トシテハ常ニ

上下意志ノ疏通ヲ謀リ苟モ憂鬱等ノ徵アラハ医療ヲ加フ

ルノ外之ヲ他ニ移シ或ハ其任務ヲ轉セシムル等適當ノ方法ヲ

講究スレハ之ヲ豫防シ得ルモノナリ

三十、各隊ニ於テ寸土ノ餘地ヲ空フセス蔬菜栽培法及園藝法ヲ

奨励スルハ身体ノ保健、精神ノ慰安、蔬菜ノ供給等衛生

上ノ利益甚タ多キヲ認ム

三十一

花柳病ハ軍紀風紀ノ肅整ニ依リ之ヲ絶滅シ得ヘシト虽
一方憲兵ト警察官トノ任務ニ頼リ賣春婦ノ取締ヲ嚴
重ナラシメ豫防セシムルヲ要ス地方婦女殊ニ韓國婦女ノ
病毒ヲ有スルモノ甚ク多キハ寒心ニ堪ヘサル所トス一層
ノ注意ヲ要スルモノトス

三十二

其他被服寢具ヲ日光ニ曝シテ乾燥ヲ計リ身体ヲ清
洗シ頭髮爪甲ヲ短截スル等一般ノ衛生法ハ内地ニ於ケル
ヨリハ一層其ノ必要ヲ認ム之等ハ業ニ既ニ熟知シ居ルコト
ナルヘキヲ以テ茲ニ縷述セス各官宜シク督励セララルヘキナ
リ

明治四十二年五月氣温表

韓國駐劄軍軍醫部

日次	平均	最高	最低	日次	平均	最高	最低	日次	平均	最高	最低
一日	八五	一九三	五七	十一日	一三九	二〇二	六八	三十一日	一六九	二四二	一〇九
二日	一三九	一九九	六九	十二日	一四二	二一、二	八〇	三十二日	一九五	二四八	一六二
三日	一三六	一五四	一〇九	十三日	一四四	一九八	一〇三	三十三日	一六七	二五四	一三七
四日	一七〇	二一八	一三七	十四日	一四一	二一、一	八四	三十四日	一三四	一九七	八九
五日	一五八	二一六	一三六	十五日	一五三	二二、〇	一〇〇	三十五日	一四七	一八七	一〇二
六日	一、五	一四三	一〇三	十六日	一五四	二二、四	九二	三十六日	一五〇	二一、二	一〇、七
七日	一、三	一七九	九四	十七日	一六、〇	二二、一	一一、二	三十七日	一八八	二九、四	八、八
八日	一四二	二一六	六八	十八日	一五、三	二一、五	一一、六	三十八日	二〇八	二九、〇	一三、七
九日	一七〇	二五、六	九四	十九日	一五、二	二一、一	九七	三十九日	二一七	二九、六	一四、四
十日	一六九	二三、四	一三三	二十日	一六、二	二二、四	九八	四十日			
十一日	一、三	一四、五	九〇	二十一日	一七、二	二二、二	一〇、七				

備考

其 浪 津 近	梁 山	龜 浦	釜 山 市 内	草 梁	長 鬐	慶 州	永 川	大 邱	地 名
一 〇 二 九	二 八	二 一 七	一 四 一 九 六	二 七 五 七	三 六	一 七 四	一 二 九	三 六 五 九	人 口
居 昌	咸 陽	山 清	德 山	丹 城	晋 州	宜 寧	真 金 海 近	密 陽	地 名
五 九	七	九	八	七	八 〇 一	二 八 三	六 二 四	四 七 一	人 口

永邦人調査表

夢 灘	咸 平	羅 州	仙 岩 附 近	光 州	月 坪 附 近	潭 陽	淳 昌	契 樹 馱	南 原	知 礼
三 五	一 〇	二 八 一	五 九	七 七 六	一 八	三 六	二 一	二		六
谷 城	福 外 場	同 福	和 順	綾 州	靈 巖	長 興	海 南	莞 嶋	珍 島	右 水 營
一 四	五	二	七	二 二	一 〇 〇	九 〇	一 五	一 五	三 〇	一 〇

0381

巨文島 (古島)	麗水	突山	小内島 崇甫	興陽	樂安	筏橋	順天	光陽	河東	求礼
一 五 一	五 四	九	五	一 四	一	八 〇	一 〇 〇	二 三	八 七	一 〇
江景	淡川	金泉	尚州	青山	永同	懷仁	報恩	龍潭	鎮安	大田
七 〇 八	一 五 七	五 〇 〇	二 〇 七	三 三 八	二 三 〇	四	二 三	一 〇	二 六	一 五 〇 〇

0382

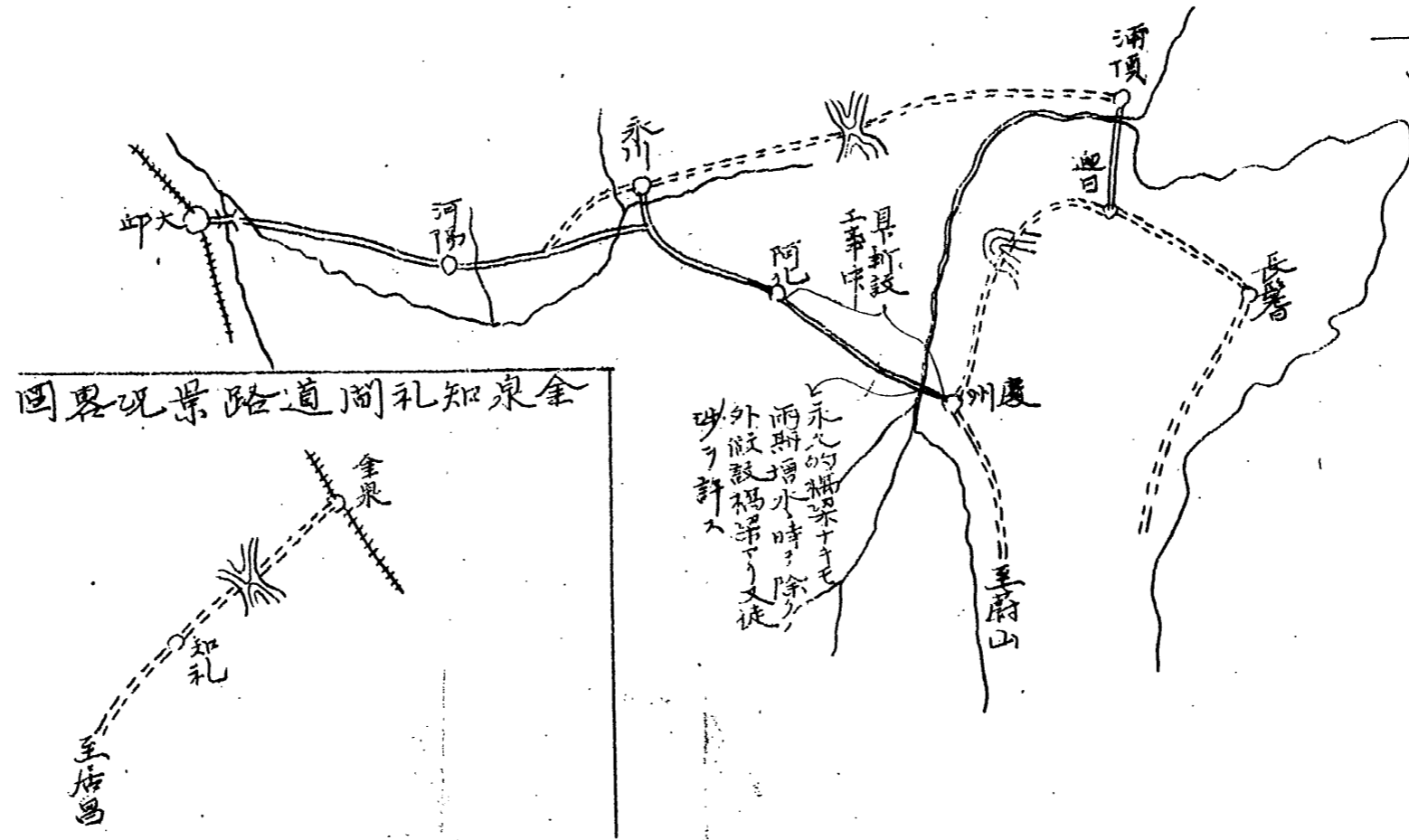
榮 川	安 東	龍 宮	玉 山	醴 泉	咸 昌	鴻 山	鳥 致 院	清 州	公 州	安 城
	一 一 九	七	七	四 二	四 四	四 五	五 〇 八	二 一 五	六 二 〇	二
古 阜	靖 聖 浦	節 長	高 敞	靈 光	院 坪 里	金 溝	金 堤	扶 安	全 州	青 松
六 二	五 八	一 四	二 〇	三 五	一 一	七	一 四 二 八	一 四 八	七 四 八	二 五

0383



500,000

慶州永川附近主要道路景觀略圖



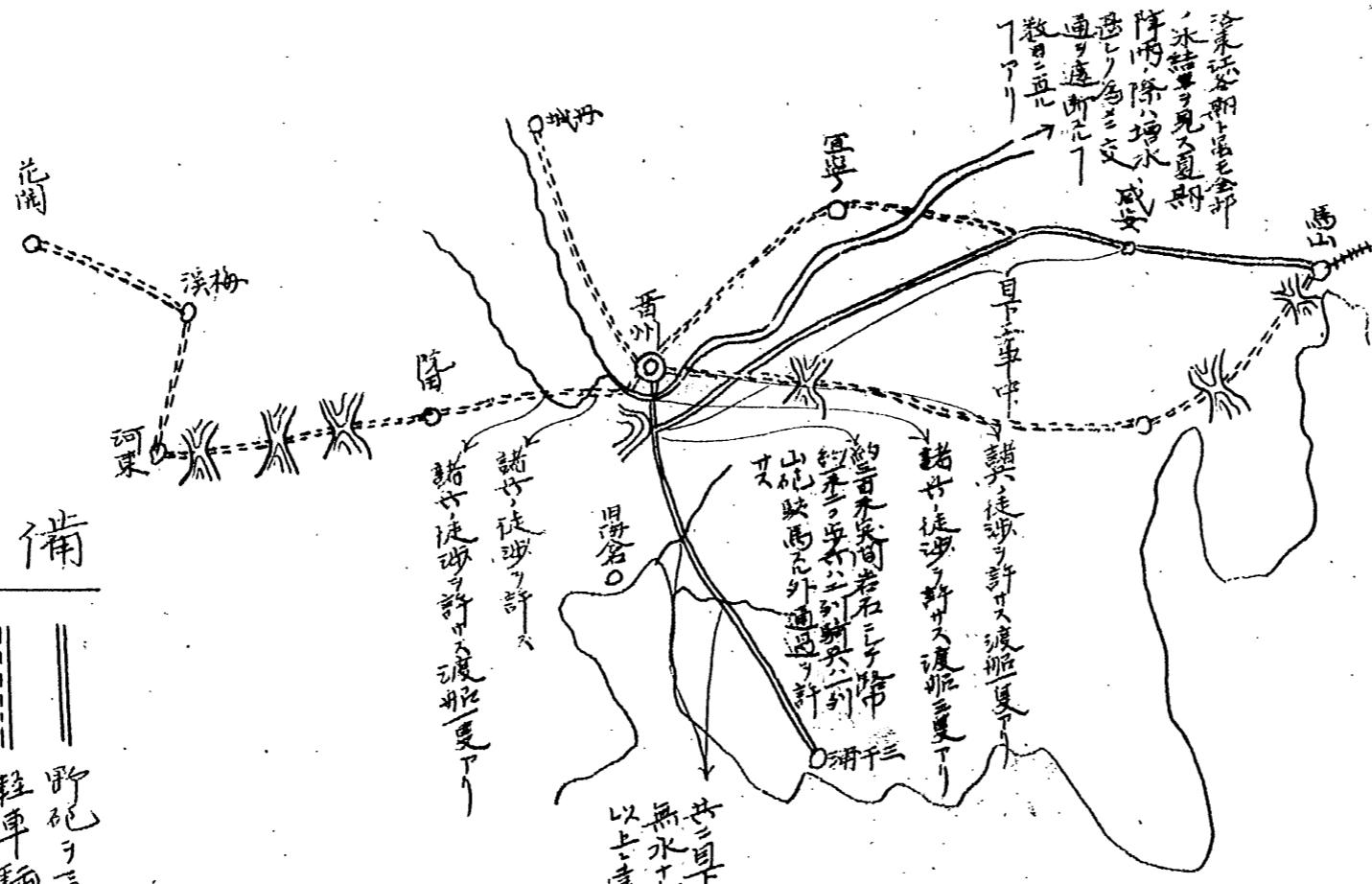
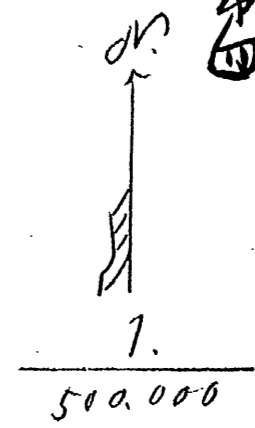
考 備

- |||| 野祀之通之道路
- ||| 駐車輛之通之道路
- || 騎兵之通之道路

0385

晉州附近主要道路景觀略圖

景
備
考



景
備
考

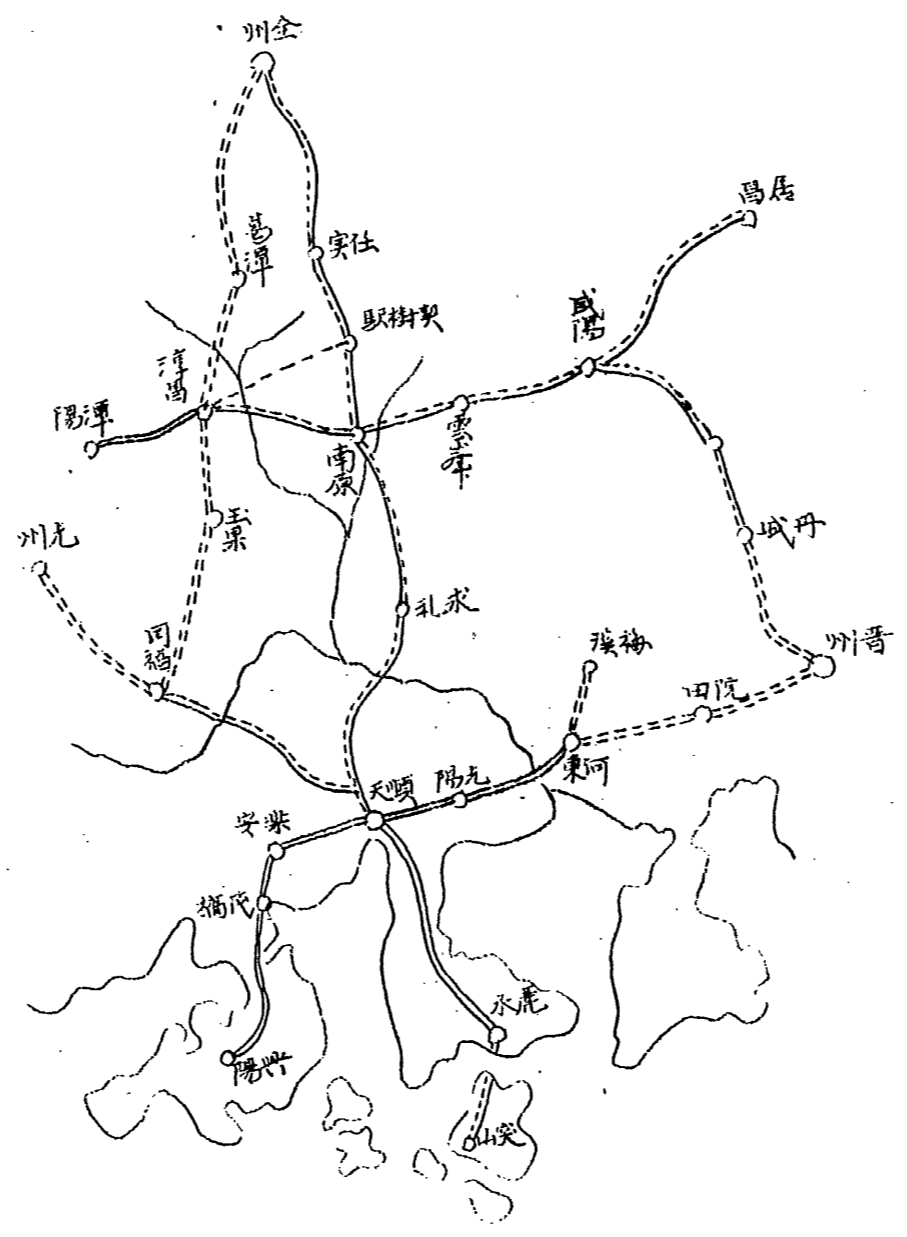
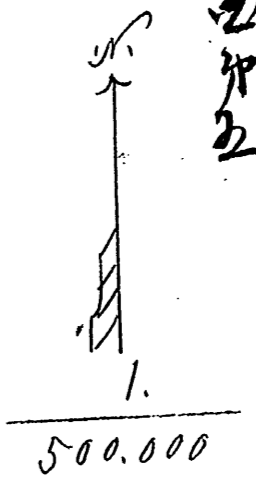
- |||| 野記ヲ通スル道路
- ||| 輕車輪ヲ通スル道路
- 騎馬列出等ニ列ヲ通スル道路

諸般徒歩許
諸般徒歩許
諸般徒歩許

此早中橋梁ナシ平時ハ難
無水ナルモ雨期至レハ一
以上達シ通過困難ナリ

圖略況景路道要主近附原南

竹玉卯五



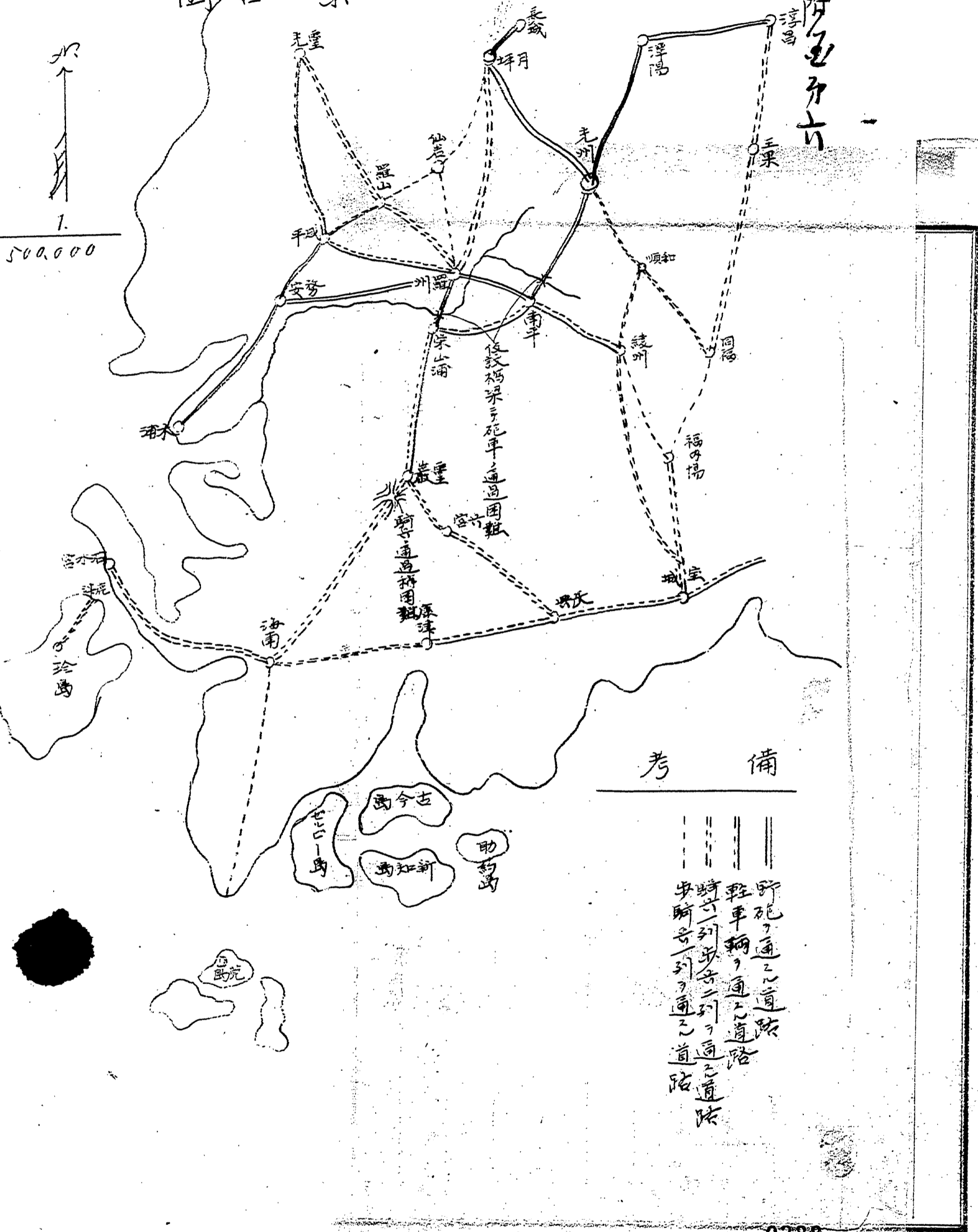
考 備

- ||| 野砲之通只此道路
- || 輕車之通只此道路
- || 騎兵之通只此道路
- || 步兵之通只此道路

0387

光州附近主要道路景观略图

附圖分六



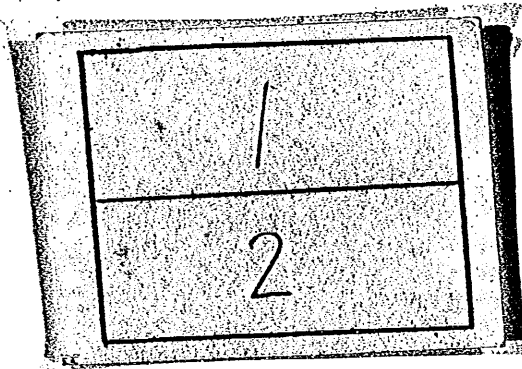
月

日

0389

分割撮影ターゲット

分割した
部分の
撮影順序



分割撮影
した理由

A 3 判 以 上 の た め

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

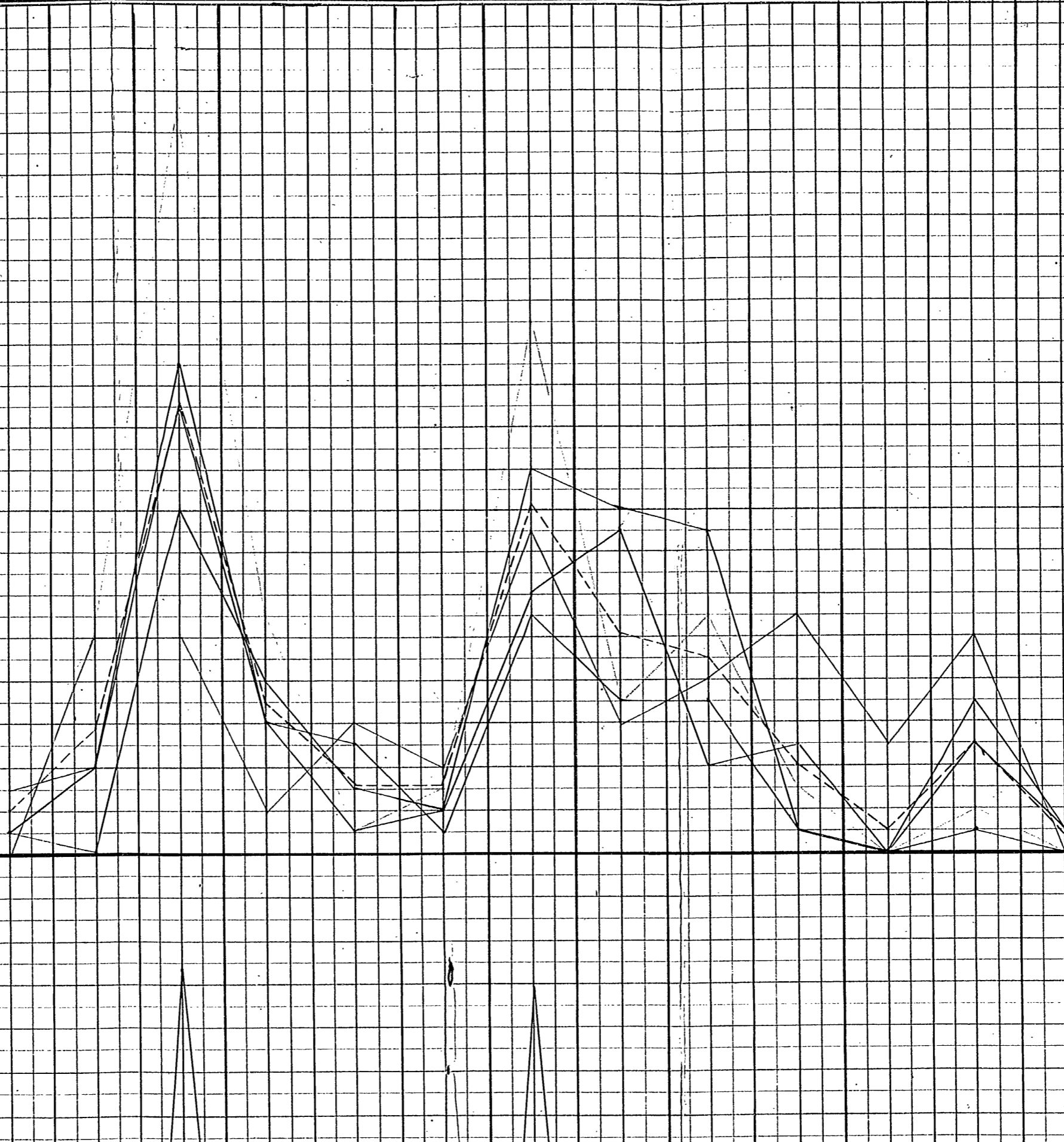
0390
0391

附録第一

自明治四十二年十一月
至全四十二年三月

衝
突
面
各
道
別
暴
徒

35.
30.
25.
20.
15.
10.
5.
3.
2.
1.
1400.
1300.
1200.



備考	十一月	十二月	一月	二月	三月	三月平均
衝突回数計	10	15	25	15	10	12
暴徒数計	1400	1350	1300	1250	1200	1250

暴徒討伐一覽圖

暴徒討伐一覽圖

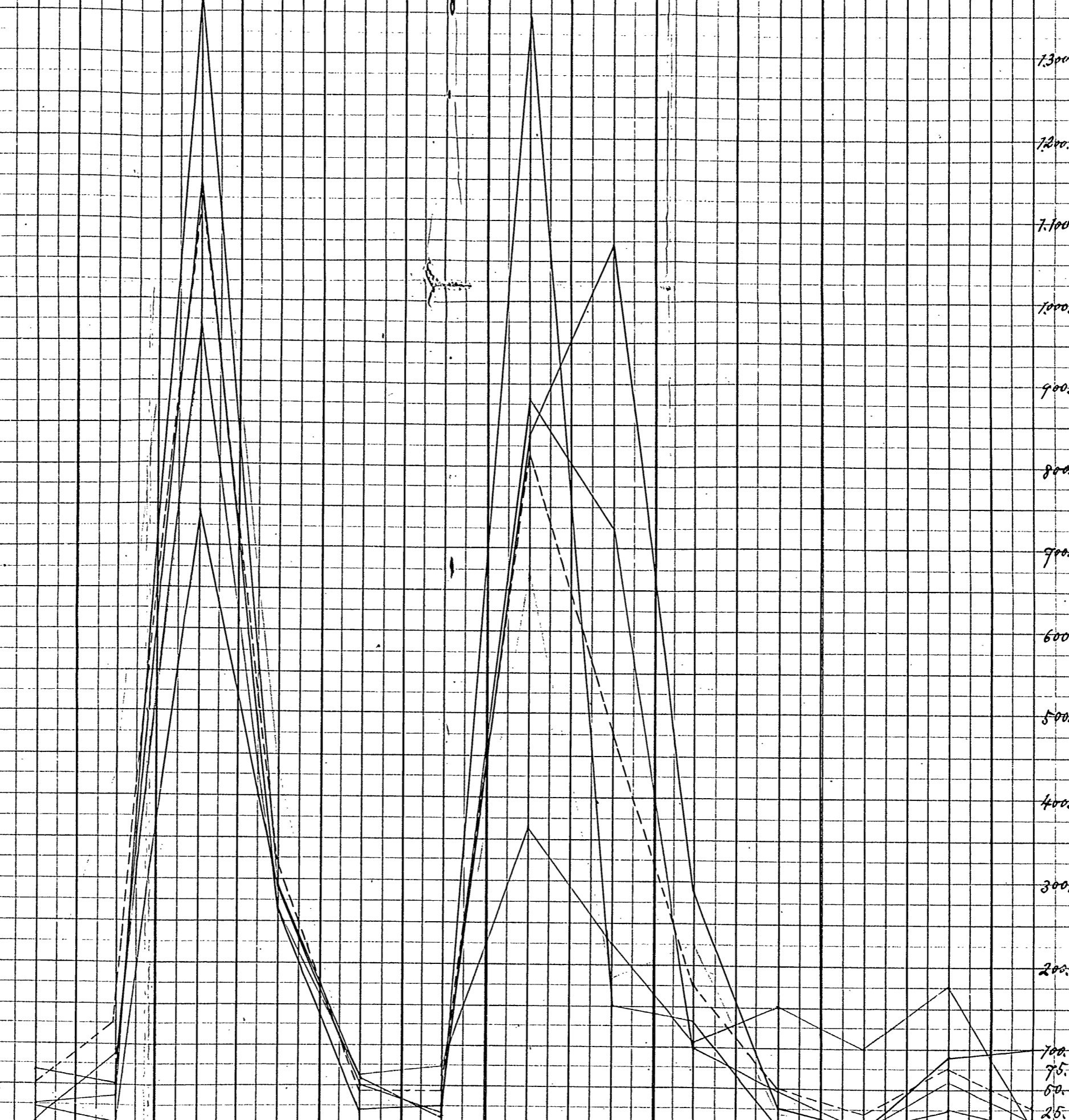
韓國駐劄軍司令部

7300.
7200.
7100.
7000.
900.
800.
700.
600.
500.
400.
300.
200.
100.
75.
50.
25.

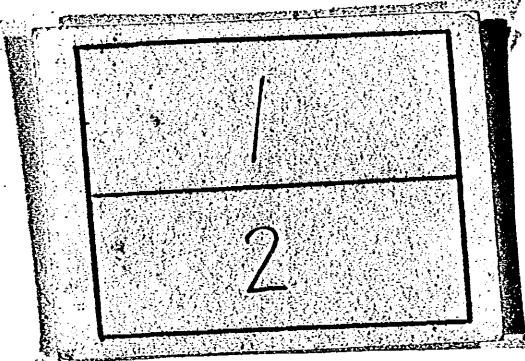
慶南 慶北 全南 全北 忠南 忠北 京畿 黃海 江原 平南 平北 咸南 咸北 道別

(一七二七年)	(一七二八年)	(一七二九年)	(一七三〇年)	(一七三一年)
全	全	全	全	全
二七九	四一八	三九〇	三九〇	三六五
一五四二	八六二	七六八	五七九	四三三

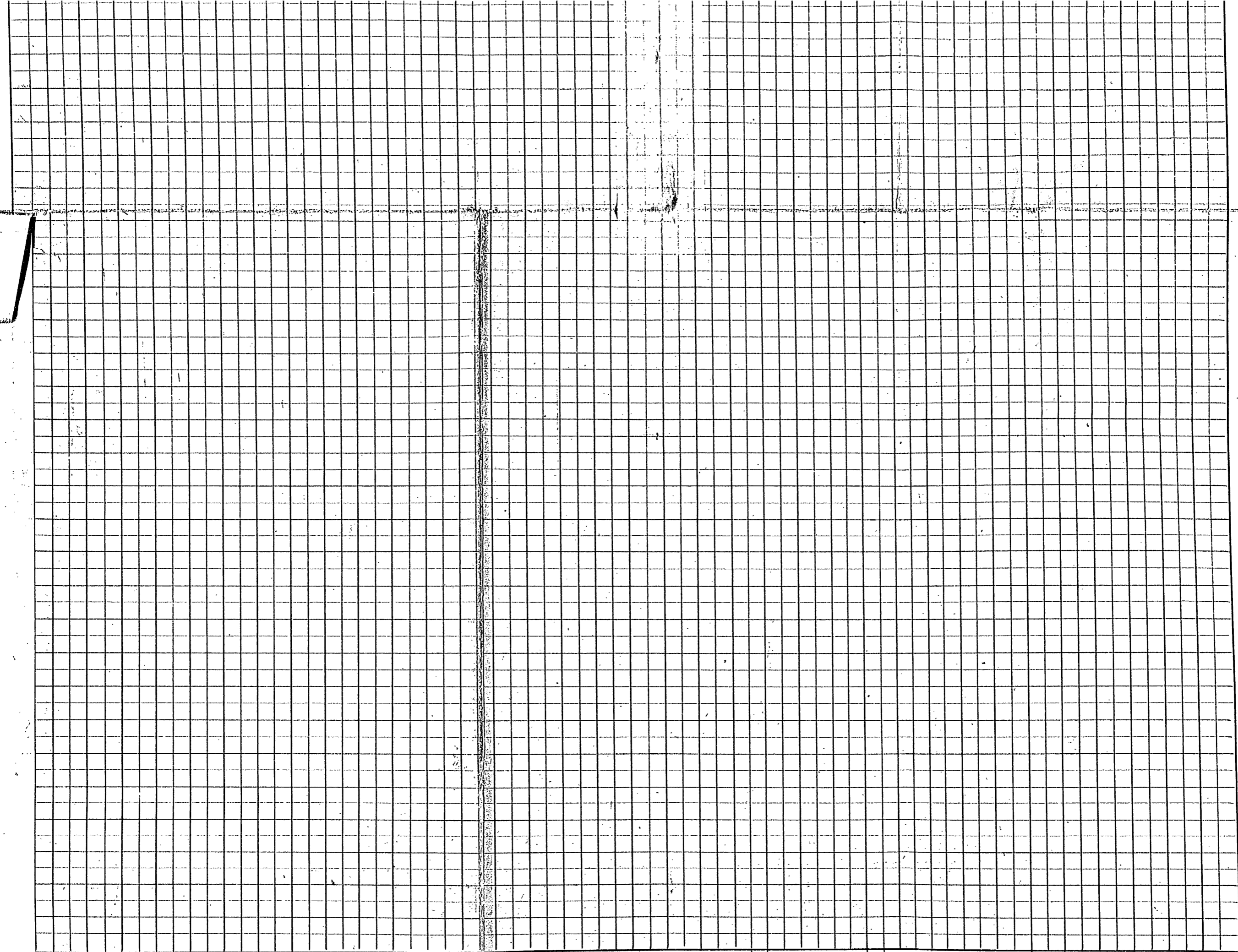
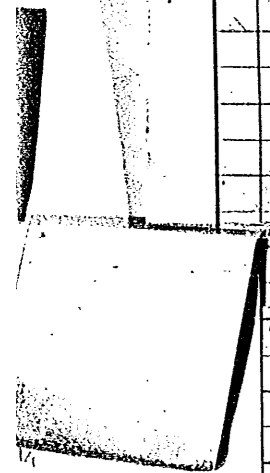
括弧内数字前年、今月、於下数字未



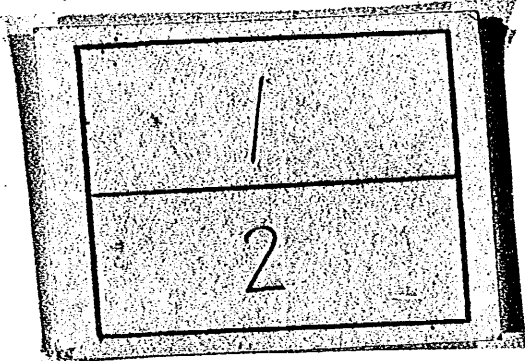
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0392
0393

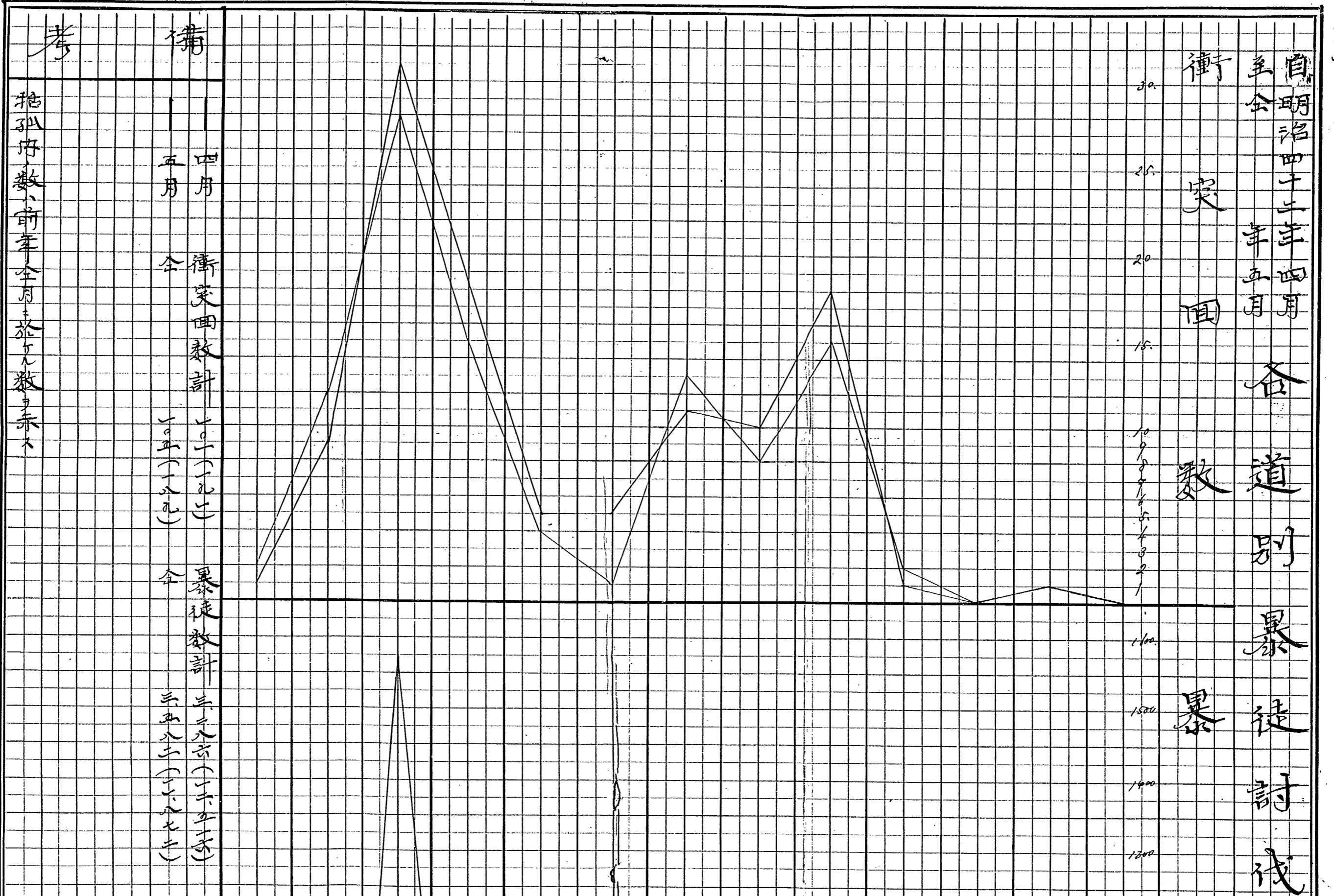


分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0394
0395

區第二



抱孤舟数、前年全月、於此数、赤不

四月 衝突回数計 101 (102)
五月 暴徒数計 1526 (1527)

自明治四十二年四月
至五月
衝突回数
各道別暴徒討伐

一覽圖

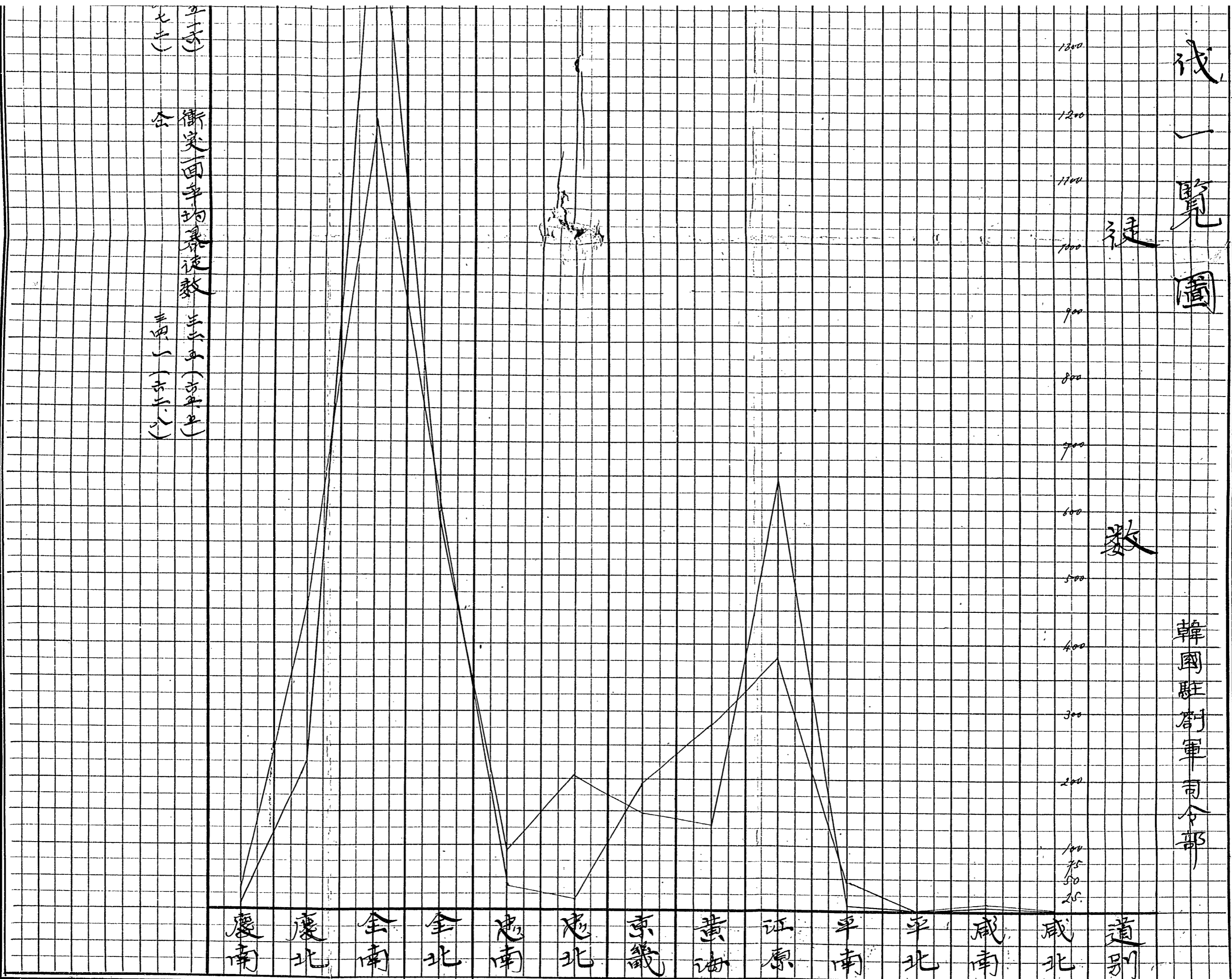
徒数

韓國駐劄軍司令部

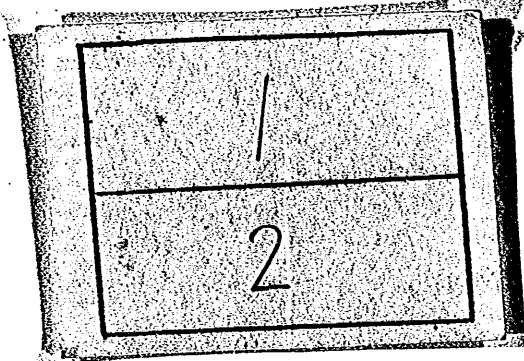
1300
1200
1100
1000
900
800
700
600
500
400
300
200
100
75
50
25

慶南 慶北 全南 全北 忠南 忠北 京畿 黃海 江原 平南 平北 咸南 咸北 道別

五二(一) 衛兵(回)平均募集数
三三(五) (五) (五) (五)
三四(一) (五) (五) (五)



分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0396
0397

